

◀ 巻頭言 ▶

「船用燃料の転換について思うこと」

理事 岩谷 浩 次

2024年3月26日に米国ボルティモア港で発生したコンテナ船の橋梁への衝突による崩落事故についてはニュース等でご覧になった方も多いと思う。私自身、2023年から乗船していた船を2024年1月に同港にて下船したばかりであったため大変驚いた。

以下に記している事故の概要についてはWEB News等からの情報であり、真偽を確認したものではない点は予めご容赦いただきたいが、それらによると事故の原因は出港後に電源が喪失し、操船不能となったことにあるとされている。

事故は当該船がボルティモア港を出港した直後に発生しており、港外に出る途中で同港のフランシス・スコット・キー橋に衝突した。トラブルの中で一度電源復旧したものの再度喪失、最終的に操船不能のまま衝突に至ったようである。橋は崩落、人身被害に加え、落下したコンテナによる海洋汚染など甚大な被害をもたらせた。

米国TV局のWeb Newsには、米国当局は当該船が使用していた燃料油の性状にも着目している旨の内容が記載されていた。燃料油に関連するトラブルは我々機関士であれば大小少なからず経験があり、個々の性状云々に関わらずこれを安全に使用するため様々な努力を行い、常に気を使っている。

「いつ何が発生するか分からない」が前提にあり、仮にトラブルが発生しても最悪の事態とならないよう緊急対応も訓練している。当該船の乗組員がどのような対応を行ったのかなど詳細は把握出来ないが、燃料油の取扱いについては機関士であれば国籍や会社に関わらず誰もがほぼ共通した認識、同等の知識、技能を有していると考えたい。その上で発生した事故であるとすれば、決して他人事ではないと言える。Newsには「世界の海運業界を悩ませてきた長年の問題に注目が集まっている」と書かれていたが、遅きに失した感もある。

さて、最近では船用燃料も環境の問題を背景に大きな転換期を迎えて様々な代替燃料が登場している。私自身は最近LNG燃料船に初めて乗船し、実務面が従来とは大きく異なることに改めて驚いた。

船級、造船所、エンジンメーカー、補機メーカー等あらゆる関係者方の努力によって安全運用のため大変高度な技術が詰め込まれたものであり、その点に何ら疑いの余地はないが、我々自身は実運用に際し、従来燃料の派生型とは考えない方がよいのではないだろうか。LNG運搬船では蒸気タービン船に始まりDFDE、DFD船とLNGの燃料としての取扱い経験のある方も多く居られるだろうが、一般貨物船でのLNG燃料はこれらとも少し異なる。

これは技術面に限らず運航や労務管理の点にまで広く及ぶ。乗船前に様々な研修訓練を受けさせていただいたものの、実際に経験してみると驚くこと、困難を伴うと感じる点は複数あった。

安全が大前提であることは誰もが理解していることではあるが、現状では環境問題が先行している印象もあり、今後の代替燃料はLNGに限らずアンモニアや水素と展開され、ハードルはさらに上がってゆく。

実務に関する改善は継続的に実施し、皆で協力しながら安全運用のための基礎を築いていく必要があるが、想像以上に複雑かつ高度となるかもしれない。

我々機関士の素性だろうか、現場での対応は自分達で何とかしようと精一杯努力をするのであるが、取返しのつかないような事態にはならない。

必要な事については早い段階で声を挙げ、周囲も巻き込みながら対応していく事がより重要になるであろう。

